

# 令和4年度（2022年度）全国学力・学習状況調査結果報告

令和4年4月実施の「全国学力・学習状況調査」について、本校の調査結果をお知らせいたします。

- 実施された国語・数学・理科に関して【区分及び領域】で概要を示しました。
- 生活習慣や学習環境に関する調査につきましても、顕著なものを取り上げてまとめました。
- 全国学力・学習状況調査 について、国立教育政策研究所ホームページも併せて御覧ください。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

◇75個の質問から、全国・北海道平均との差が顕著である項目を取り上げています。

本校の概要	調査における課題	改善の方向
<p><b>平均と比較し良好な回答が多い項目</b></p> <p>□朝食を毎日食べている。</p> <p>□毎日、同じくらいの時刻に寝ている。</p> <p>□毎日、同じくらいの時刻に起きている。</p> <p>□将来の夢や目標を持っている。</p> <p>□自分でやると決めたことは、やり遂げようとしている。</p> <p>□家では、自分で計画を立てて勉強している。</p> <p>□新聞を読んでいる。</p> <p>□読書が好きである。</p> <p>□学習した内容について分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。</p> <p>□学校が休みの日（土日等）、1日当たり3時間以上4時間以内の勉強をしている。（塾・家庭教師・ネット活用含む）</p> <p>□国語・数学の解答時間は十分だった・ちょうどよかった。</p>	<p>■自分に良いところがあるかという問いに、肯定的な回答の生徒が平均よりすこし少ない。</p> <p>■難しいことでも、失敗を恐れず挑戦すると回答する生徒が平均より少ない。</p> <p>■学校に行くのは楽しいかという問いに、肯定的な回答の生徒が平均よりすこし少ない。</p> <p>■困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるという回答の生徒が平均より少ない。</p> <p>■新聞を読んでいる生徒は全国平均とほぼ同程度ですが、全く読まないという生徒が8割近い。</p> <p>■学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるという回答が平均より少ない。</p> <p>■「国語」「理科」の授業に対する意欲や意識が全体的に低い。</p>	<p>◇学校行事や学級活動や部活動等からも自己肯定感や自己有用感をもてるような指導の工夫を今後も継続する。</p> <p>◇分からないこと・困ったことを教師に質問・相談し、生徒自身が計画的で安心できる学校生活（学習）ができるように、学校としての相談活動等の環境や機会を作る。</p> <p>◇生活習慣の基本となる体調管理や、学習内容の充実等の側面として、日課の自己管理ができる手帳の活用を今後も継続する。</p> <p>◇新聞を読むことは、地域や社会の動きを知る一つの手段であることについての啓発に努める。</p> <p>◇学級がお互いを認め合い、意見交流やよりよく生活するための学級作りや学校体制を作り、学習や活動において十分に力を発揮できる場面を作る。</p> <p>◇各教科の話し合い学習や総合的な学習の時間、道徳、学級活動などでの意見交流ができる場面を増やし、多くの生徒が生き生きと活動できる場面を作る。</p> <p>◇ご家庭ではさっぽろっ子「学びのススメ」を参考に御指導ください。</p>

本校の概要

【内容】

○全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

◎「話すこと・聞くこと」では、聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫すること、論理の展開などに注意して聞くについて、全国平均を上回っている。

△「書くこと」では、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くについて、全国平均を下回っている。

○「読むこと」では、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈するについて、全国平均を下回っている。

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」の助動詞の働きについて理解し、「目的に応じて使う」について、平均正答率は、全国平均を下回っている。

△「我が国の言語文化に関する事項」について、行書に関わることの正答率が低くなっている。

○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」いずれの領域においても、記述式の問題における無解答率が全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

■[書くこと]

・自分の考えを文にして表現する技能、その考えに対する根拠を考え、文書表現すること。

■[読むこと]

・内容を理解するために場面と場面、場面と描写を関連させて解釈すること。

■[言葉の特徴]

・品詞の分類・働きを正しく理解し、文章の意図  
・目的に応じて適切に使う。

■[言語文化]

・書写指導の充実。  
・特に行書についての知識を深め、活用したりする。

改善の方向

◇自分の考え・その根拠を他人に伝わる表現にするよう、文章構成を考えながら書く学習活動の充実。

◇文脈に即して、描写を丁寧に読み取り、場面の内容を理解できる用にする学習活動の充実。

◇言葉の特徴及び言語文化に関する基礎的な知識を習得できるようにする学習活動の充実。

分類	区分	全国との比較
学習指導要領の内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	○
	情報の扱い方に関する事項	△
	我が国の言語文化に関する事項	△
	話すこと・聞くこと	◎
	書くこと	△
問題形式	読むこと	○
	選択式	○
	短答式	○
全体	記述式	○
全体		○

※+3.1%以上=上回っている ±3%=ほぼ同程度 -3.1%以下=下回っている  
= ◎ で表示 = ○ で表示 = △ で表示  
しています。

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

**【領域】**  
 ○全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度である。

**「数と式」**  
 ○平均正答率は、全国平均とほぼ同程度ですが、やや下回っている。  
 ・「自然数を素数の積で表すことができる」において、全国平均を下回っている。  
 ・「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」において、全校平均を上回っている。

**「図形」**  
 ○平均正答率は、全国平均とほぼ同程度ですが、やや下回っている。  
 ・「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」において、全国平均をやや下回っている。  
 ・「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」において、全国平均とほぼ同等ですが、やや下回っている。

**「関数」**  
 ◎平均正答率は、全国平均を上回っている。  
 ・「一次関数の変化の割合の意味を理解している」「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」  
 ・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」  
 のいずれにおいても、全国平均を上回っている。

**「データの活用」**  
 ○平均正答率は、全国平均とほぼ同程度ですが、やや下回っています。  
 ・「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している」において、全国平均を下回っている。  
 ・「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」において全国平均を上回っている。

■[数と式]  
 ・事象の特徴を的確に捉えることや自然数を素数の積で表すこと。

■[図形]  
 ・反例の意味を理解することや三角形の合同条件を理解すること。

■[関数]  
 ・与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることや問題解決の方法を数学的に説明すること。

■[資料の活用]  
 ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ること。

◇素因数分解することを通して、整数の性質についての理解を深める活動の充実。

◇図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて説明する活動の充実。

◇日常生活や社会の事象における問題の解決に数学を活用する学習場面の設定。

◇複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動の充実。

分類	区分	全国との比較
学習指導要領の領域	数と式	○
	図形	○
	関数	◎
	データの活用	○
問題形式	選択式	○
	短答式	○
	記述式	○
全体		○

+3.1%以上=上回っている    ±3%=ほぼ同程度    -3.1%以下%=下回っている  
 = ◎ で表示                      = ○ で表示                      = △ で表示  
 しています。

本校の概要

○全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

【領域】

「エネルギー」

○平均正答率は、全国平均を上回っている。

・「静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうか」「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうか」「課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技術が身に付いているかどうか」について、全国平均を上回っている。

「粒子」

○平均正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

・「水を電気分解させて発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうか」において、全国平均を上回っている。

「生命」

△平均正答率は、全国平均を下回っている。

・「未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうか」において、全国平均を下回っている。

「地球」

△平均正答率は、全国平均を下回っている。

・「継続的に記録して空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうか」において、全国平均を下回っている。

・「玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうか」において、全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

■「エネルギー」

・測定点を考察しながら、変化の様子をグラフに表すことができること。

■「粒子」

・状態変化と熱の出入りについて理解し、身近な事象にあてはめて考えることができること。

■「生命」

・動物の体が、生存または生存環境に適したつくりと働きをもっていることを理解すること。

■「地球」

・気象観測データと天気図を分析、関連付け、解釈し、天気の移り変わりを予測すること。

改善の方向

◇エネルギーについて、身近な例をもとに考える楽就活動の充実。

◇学習したことを日常生活や社会の中に見出していくことで、日常の現象を科学的な視点で捉えることができるような場面の設定。

◇データを分析する場を設定し、分析結果から、どのようなことが言えるのか、解釈する場面の設定。また、結論を導くためにはどのような結果であるべきか、仮説を立てて考える楽就活動の充実。

分類	区分	全国との比較
学習指導要領の領域等	「エネルギー」を柱とする領域	○
	「粒子」を柱とする領域	○
	「生命」を柱とする領域	△
	「地球」を柱とする領域	△
問題形式	選択式	○
	短答式	◎
	記述式	△
全体		○

※+3.1%以上=上回っている ±3%=ほぼ同程度 -3.1%以下=下回っている  
 =◎で表示 =○で表示 =△で表示  
 しています。